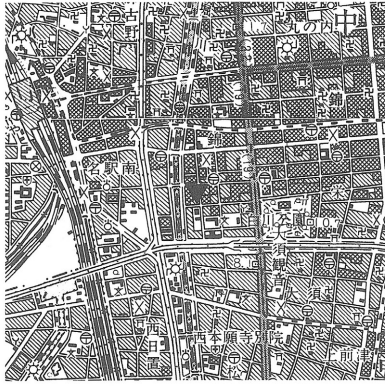


愛知・**豎三蔵通**遺跡
たてみつくらどおり

- 1 所在地 愛知県名古屋市中区栄一丁目
- 2 調査期間 二〇〇五年(平17) 四月～二〇〇六年三月
- 3 発掘機関 朝日航洋(株)
- 4 調査担当者 安田幸市・水野聡哉・田中城久
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(名古屋北部・名古屋南部)

豎三蔵通遺跡は、名古屋市の都心部に近い標高一〇m前後の台地上に位置する。これまでの発掘調査では、旧石器時代から弥生時代

にかけての遺物や古墳の周溝、古墳時代から奈良時代にかけての住居などが検出された。また、江戸時代には名古屋城下町の武家地にあたり、屋敷地に伴う各種の遺構が多く検出されている。

木簡は、江戸時代の庭園

遺構(池)の庭石の抜き取り痕とみられる土坑SK四六(長径二・四m短径一・六七m)から一点、一九世紀前半頃の陶器を伴う廃棄土坑SK一六三七(南北三・一m東西三・九mの長方形)から二点、一九世紀前半頃の陶器を伴う井戸SE一〇(径一・二mの隅丸方形、深さ三・四四m)から二点、計五点が出土した。

8 木簡の积文・内容

SK四六

(1) 一

